

280m[近畿,1979], 山崎町葛根[富永,春沢,1973], 千種町千草~岩野辺 alt.380m[近畿,1979], 波賀町原[日浦,桂,1971, 遊磨,1979], 波賀町音水(1♀,25.VI.1972), 波賀町戸倉, 大森神社[近畿,1979], 波賀町引原(1♀,22.IV.1975, M.Yuma leg.). 多紀郡篠山町東浜谷, 春日神社 alt.260m[近畿,1979], 東浜谷池東岸 alt.260m, 郡家 alt.240m[日浦,1971, 近畿,1979], 小金ヶ嶽,三嶽ノ間の峠 alt.520m, 西浜谷~東浜谷(盃ヶ岳山麓), 春日神社 alt.270m[近畿,1979], 篠山町[岸谷,1961, 岸田,辻,1975](2♂4♀,17.IV.1976), 大市[水沼,1969], 三嶽[中臣,1970], 城東町四十九 alt.420m, 弥十郎岳南東の峠下方 alt.600m, 飛曾山東方 alt.250m[近畿,1979], 多紀町天引峠(西方) alt.320m[近畿,1979], 雨石山[林ほか,1995], 西紀町(1♂,15.I.1977,etc.K.Kobayashi leg.). 氷上郡[山本,1958], 春日町(東) alt.260m. 市島町多利(東方) alt.120m, 春日町黒井城山(西斜面) alt.230m[近畿,1979], 柏原町柏原入船八幡神社 alt.50m, 青垣町大名草~倉倉 alt.240m, 杉谷 alt.260~280m[近畿,1979], 山南町若林(1♂,26.III.1975, K.Kuramoto

leg.,3♂5♀,23.I.1977, K.Fujiwara leg.), 石生(1♂, XI.1981, Y. Hachitani leg.). 出石郡出石町水石(東床尾山北麓) alt.100~140m[近畿,1979], 但東町河本, 出石町三木, 鍛冶屋[高橋,1982]. 豊岡市九日市[高橋,1975], 高尾山金山稻荷神社 alt.80m[近畿,1979]. 朝来郡朝来町青倉山青倉神社 alt.800m, 生野町生野(西方) alt.340~380m, 口銀谷姫宮神社(西方) alt.320m, 和田山町奥水坂~白井 alt.230m, 東町小谷 alt.160m, 朝来町新井(北方) alt.180m[近畿,1979], 朝来町佐寝・さのう高原, 和田山町東谷(和田山西側), 柳原(和田山北東側)[富永,1998]. 養父郡関宮町丹戸[中山,1968, 日浦,1971], 関宮町鉢伏高原[富永,1998]. 氷の山[大槻,1957, 日浦,桂,1971], 氷の山(1ex.,19.VII.1943, M.Ohkura leg., 1ex,12.VII.1954, M.Yoshizaka leg.), [高橋,1964,1982]. 美方郡美方町鍛冶屋 alt.450m[近畿,1979, 辻,岸田,1971], 温泉町蒲生峠~越坂上の神社[近畿,1979], 鉢伏山頂[日浦,桂,1971], 村岡町福岡八幡神社[富永,1998], 扇ノ山[辻,岸田,1972, 高橋,1982]. (TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)

キベリハムシを日本で一番初めに採集したのは ジョージ・ルイスではないのか? 高橋 寿郎

筆者は本誌上に"キベリハムシが初めて日本で記録されたころの思い出"なる報文を発表して頂いた(きべりはむしVol.25, No.2: 44-47, 1997). その中でキベリハムシが初めて図説されたのが加藤正世博士の分類日本原色図鑑第9輯, pl.23, f.6にカラーで図説されたものであると紹介し, 当然その頃より本種の神戸での記録は見る事が出来るようになった。だがそれ以前何時頃神戸でこのキベリハムシがいたのかと云ったことは全く謎のままであり, 漠然と明治の終わり頃ではないかと考えていたのであるが, 最近, 偶然黒沢良彦博士が, よく知られている素木(しらき)標本についての詳しい解説文を書いておられるのをゆっくり読む機会を持った(甲虫ニュース No.50: 7-13, No.51: 5-6, 1980). 即ち, 素木標本として知られている標本は, 大正5年(1916)当時の台湾総督府農事試験場技師であった素木得一博士が, 3年間のロンドン留学

を終えて帰国されたが, 帰国に際し膨大な量の日本内地や東南アジア産の甲虫標本を持ち帰られた。

日本内地産の標本は有名なジョージ・ルイス(George Lewis)の採集品で, 彼自身や他の甲虫学者によって記載された多くの種類のタイプ標本を含んでいた(この標本がどのような経緯で入手されたのかは全く不明であると)。これらの標本の産地を示すラベルは素木得一博士が帰台後台北においてすべて外され, その代わりに台湾内の特定の数カ所の地名を示すラベルが付けられたとのことで, このような大がかりな意識的なラベルの付け替えが, いかなる目的のもとにされたのか, これまた全く謎である。

さらに, 黒沢良彦博士の解説は続く。"降って大正11年(1922), 当時台湾に在って浪人中の若き日の加藤正世博士は, 素木得一博士の尽力により, 台湾総督府嘉義農事試験場に奉職した。同博士は

昭和3年(1928)まで足掛け7年間台湾に滞在されたが、内地に戻るに際し、博士自身の採集品と共にかなりの量の「素木標本」を持ち出した。その間の経緯についても「素木標本」の経緯と同様に私にはどうであったか全く判らない。ただ、加藤正世博士がこれらの標本をすべて台湾産と信じて全く疑いを持たれなかったことは確かである。”とある。

加藤正世博士が東京に居を移した後、昭和8年(1933)に刊行された加藤正世博士著「分類原色日本昆虫図鑑」の甲虫編に当たる第8及び第9輯に多量の「素木標本」がすべて台湾産として図示されていることによってそれは推定できる。しかし、加藤正世博士は甲虫の方はあまり詳しくなかったため、同図鑑の中には随所に奇妙な「頭隠して尻隠さず」式の誤りが散見するとして、黒沢良彦博士は数多くの図示された種の分布上不合理な点を指摘され、それ等標本の真の産地を示されている。

ただ、黒沢良彦博士もハムシについてはあまりよく御存知なかったのか、図鑑第9輯、pl.13,f.6に「*Oides bowringii* Baly キベリハムシ[分布]台湾」とあるのに疑問を示されていない(学名も違っている……*Oides bowringii* Baly)。この図鑑が発行されてからこのキベリハムシが次々と神戸六甲山系で見つかりはじめ、いろいろと疑問も出てきたが、それに対して加藤正世博士は自身で採集されたものならその状況の説明があってもよいであろうし、その標本にどんなラベルが付いていたのか等々について何の言及もされていない。当時ハムシ類の専門家の湯浅啓温博士も、台湾から未記録だとされ内地からもはじめてであると云っておられる(昆虫界, Vol.1, No.6, p.656-657, 1933)。加藤正世博士は、このキベリハムシの標本も素木標本の一つであり、台湾産のものでないといったことに気がついていなかったのだと思われる。即ち、黒沢良彦博士の解説によるジョージ・ルイスの採集品に台湾での産地ラベルを付けられた素木標本であり、ハムシについてあまり御存知なかった加藤正世博士が何の疑いも持たずに台湾産であると図説されたものであると考えられる(それ以後、現在に至るまでの台湾のハムシの調査結果からも、キベリハムシが台湾にいと云った記録は全く見られない)。ジョージ・ルイスは1867(慶応3)年から1872(明治5)年にかけて日本に滞在して(厳密には1864年一元治元年と1865年に日本に立ち寄っている)、長崎や神戸、大阪を中心に横浜、鹿児島など

を含めて採集している。神戸で何処をどのように採集したのかよくわからないが(神戸産で新種記載されている甲虫は多くある)。

慶応3年と云えば明治元年で、神戸開港式が挙行されている。筆者の手許に明治2年版の「兵庫港地図」がある。人家のあるのは兵庫津を囲んだ地域のみで、その兵庫津の周辺の村々には萬屋・酒屋の一・二軒があるほかほとんど農地で、背後には未開の山地が見られる程度のまだまだ自然状態での様相を呈している。同じ明治12年の兵庫・神戸実測図という地図も手許にある。湊川から東の海岸線沿いに人家が増えたぐらいで、やはりまだ未開の地の印象を受ける。さらに、明治2年頃の生田の森を北野の高台から望んだ写真、明治4年3月起工の生田川の付け替え工事の写真が「写真集、神戸100年」(神戸市, 1989刊)に示されている。港付近を除いては田園風景そのものの全く現在とは想像もつかない状況を見ることが出来る。

ジョージ・ルイスが2回目の日本訪問(1880~1881年)の日本各地の訪問先は詳しくわかっている(草間慶一、ジョージ・ルイスの足跡について(上)。月刊むし(8): 18-23, 1971)。その時神戸には、1881年6月4日~6月9日にわたり滞在、兵庫、湊川、三宮、摩耶山に行っており、7月9日から19日迄もいたことになっている。どちらの訪問にしても、ジョージ・ルイスは神戸ではかなり長い間滞在、採集したようであり、その時キベリハムシを採集したことは十分考えられる。そうすると、キベリハムシが日本からはじめて採集されたのは、ジョージ・ルイスによる1867~1872, 1880~1881年のどちらかになるのではと考えられる。即ち、少なくとも明治のはじめにはキベリハムシは神戸にいたのだといえそうである。或いは、もっと前に日本に来ていることも考えられないことはないが……。どのような経緯で日本に入って来たのかよくわからないが、少なくとも明治初めの頃から神戸に住みついていたことは間違いのないのではと思ひ、そのキベリハムシの初めての採集者はジョージ・ルイスであると考えてよいのではないかと思っている次第である(ジョージ・ルイスの Catalogue of Coleoptera from the Japanese Archipelago, London, 1879 中にはこのキベリハムシに該当しそうな種は残念ながら収録されていなかった)。

(VI.1998)

(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区氷室町1-44)